



ジブチ共和国

Republic of Djibouti

2007年11月現在



一般事情

< アラブとアフリカの十字路口に位置する国家 >

- 1.面積 23,200平方キロメートル
- 2.人口 80万人(2006年、世銀)
- 3.首都 ジブチ
- 4.民族 ソマリア系イッサ族(50%)、エチオピア系アフール族(37%)
- 5.言語 アラビア語、仏語
- 6.宗教 イスラム教(94%)
- 7.国祭日 6月27日
- 8.通貨 ジブチ・フラン(F.D)
為替レート 1米ドル = 177.7ジブチ・フラン(固定レート)
補助通貨単位 -

9.査証(ビザ)

10.在留邦人数 11人(2005年10月現在) コンセント・タイプ

11.在日当該国人数 5人(2005年12月現在)

12.電源 - V - Hz

13.国際電話 国番号 253 国際通話コード 0

14.シガレット 小売価格 - US\$ (20本当り)

税率 - %

製造数量 - (百万本/年)

シガレットメーカー **No Cigarette Manufacturers in this Country**

15.略史

年月	略史
1862年3月	仏、ジブチ市北方のオボック地方をアフール族より譲り受ける
1885年	仏、イッサ族よりジブチ市近辺を譲り受ける
1896年5月	仏領ソマリランドに名誉総督を派遣
1946年	仏海外領土となる
1967年3月	仏領アフール・イッサと改名
1977年6月	独立、ゲーレド大統領就任
1991年11月	政府軍と反政府軍FRUDの武力衝突により内戦が勃発
1992年9月	国民投票(新憲法採択)
1992年12月	国民議会選挙
1994年12月	政府とFRUDの間で和平合意に署名
1996年3月	FRUDが政党として正式に公認される
1997年12月	国民議会選挙
1999年4月	大統領選挙 ゲレ候補当選
1999年5月	ゲレ大統領就任
2000年2月	政府と武装FRUDとの間で和平枠組み合意に署名
2001年5月	政府と武装FRUDとの間で最終和平案を合意
2003年1月	総選挙で与党連合が国会の全65議席を獲得
2005年4月	大統領選挙 ゲレ大統領再選

16.在外大使館・領事館 なし

17.駐日大使館・領事館

ジブチ共和国大使館

Embassy of the Republic of Djibouti in Japan

〒153-0064 目黒区下目黒5-18-10

電話:03-5704-0682

政治体制・内政

1.政体 共和制

2.元首 イスマイル・オマール・ゲレ大統領

3.議会 一院制国民議会(65議席)

4.政府 (1)首相 ディレイタ・モハメド・ディレイタ

(2)外務・国際協力相 マフムッド・アリ・ユスフ

5.内政

1977年の仏からの独立以来、ジブチ住民の大部分が属するイッサ族(ソマリア系)とアフール族(エチオピア系)の対立を背景とする紛争と、国民融和に向けての努力が繰り返されてきた。

1991年、政府軍と反政府軍FRUD(統一と民主主義回復のための戦線、アフール系)の武力衝突により内戦が勃発。

両者間の和平対話が行き詰まる中、ゲーレド大統領は民主化を推進。

1992年9月複数政党制を含む新憲法を国民投票により採択。

1994年12月政府とFRUDは和平合意し、3年余りの内戦が終結した。

他方、反政府組織は北部地域を拠点に武装FRUDを形成し、ゲリラ活動を開始。

1997年12月には和平合意後初の国民議会選挙が実施され、連立与党のRPP(進歩人民連合)とFRUDが全議席を獲得し、同月29日新政府が発足。

17名の閣僚の内2名はFRUD。

1999年4月、ゲレド大統領の勇退に伴い行われた大統領選挙は、民主的な政権交替がなされるかどうかが目されたが、ゲレ候補は、野党統一候補のイドリス候補を大差で破り、同年5月8日、ゲレ新大統領が就任。

2000年2月、政府と武装FRUDの間で和平枠組み合意に署名、2001年5月、最終和平案が合意。

2003年1月、総選挙で与党連合が国会の全65議席を獲得。

2005年4月、大統領選が行われ、約97%の高得票率でゲレ大統領が再選。

外交・国防

1.外交基本方針

旧宗主国仏をはじめ、全ての国との友好協力関係維持に努力。

近年アラブ連盟の一か国として近隣のサウジアラビアを中心とするアラブ穏健派との関係が深い。

2001年9月の米国同時多発テロ事件以降は、従来から駐留する仏軍に加え、米軍基地が置かれ、独、西軍も駐留。

2.軍事力

(1) 予算 26百万ドル(2006年)

(2) 兵役 志願兵

(3) 兵力 10,950名(陸軍8,000名、海軍200名、空軍250名、補助兵力2,500名)

経済(単位 米ドル)

<交通・運輸サービスが中心>

1.主要産業 (運輸)ジブチ鉄道、ジブチ港湾サービス

2.GNI 8億5,660万米ドル(2006年:世銀)

3.一人当たりGNI 1,060米ドル(2006年:世銀)

4.経済成長率 4.8%(2006年:世銀)

5.インフレ率 1.9%(2006年)

6.総貿易額(2005年 単位:百万ドル)

(1) 輸出 100

(2) 輸入 500

7.主要貿易品目

(1) 輸出 再輸出品、現地製造品

(2) 輸入 食料、石油製品、カート、機械・電機器具

8.主要貿易相手国

(1) 輸出 ソマリア、イエメン、エチオピア、英、印

(2) 輸入 サウジアラビア、印、エチオピア、中、仏

9.通貨

10.為替レート 1米ドル = 177.7ジブチ・フラン(固定レート)

11.経済概況

厳しい自然環境のため国土の大部分で農業未発達。

主な収入源は、ジブチ鉄道による収入、中継貿易、ジブチ港の港湾施設サービス、仏軍駐留(約3,200人)による利益。

1991年よりソマリア等周辺諸国からの難民・避難民を受け入れ、うち1996年4月までにエチオピア難民約5万人が帰還したとされるが、依然として2~3万人のソマリア難民、エチオピア難民が存在し同国経済を圧

また、経済及び財政建て直しのための緊縮財政を余儀なくされている。

2001年11月、世銀・IMFの主導の下、貧困削減戦略文書暫定版(I-PRSP)が策定され、2004年5月、右文書の完全版(F-PRSP)が策定されている。

現在、ジブチ政府は、これらの文書に基づく経済政策を実施している。

経済協力(単位 億円)

1.日本の援助実績

(1) 有償資金協力(2005年度まで、EN(交換公文)ベース)0

(2) 無償資金協力(2005年度まで、ENベース)191.86

(3) 技術協力実績(2005年度まで、JICAベース)21.08

2.主要援助国(2004年、単位:百万ドル)

(1) フランス (2) 日本 (3) 米 (4) 伊 (5) カナダ

3.我が国の援助実績

1999年3月 青年海外協力隊派遣取極を締結

2000年7月 青年海外協力隊の派遣開始

二国間関係

1.政治関係

1977年6月27日ジブチを承認

1989年4月ジブチ大使館が東京に開設、我が方はエチオピア大使館が兼轄。

1986年に南イエメン(当時)内乱から脱出した在留邦人38名がジブチに脱出した事を契機に両国関係は緊密化。

更に、1994年5月、イエメン内戦で緊急脱出した在留邦人及び邦人旅行者73名が、ジブチ経由で帰国。

なお、阪神・淡路大震災の際、ゲレド大統領(当時)は私金で、日赤及び兵庫県に計1万ドルの義援金を供与。

2.経済関係

- (1)対日貿易
 (イ)貿易額(2006年 単位:円)
 輸出
 輸入 52億3,100万円
 (ロ)主要品目
 輸出 再輸出品
 輸入 自動車、タイヤ
 (2)日本からの直接投資
 なし

3.文化関係

国立劇場に対する音響機材供与等を実施。

4.在留邦人数 11人(2005年10月現在)

5.在日当該国人数 5人(2005年12月現在)

6.要人往来

(1)往(1993年以降)

年月	要人名
1993年1月	柿澤外務政務次官
2005年7月	河井外務大臣政務官
2006年10月	浜田外務大臣政務官

(2)来(1978年以降)

年月	要人名
1978年8月	カミル首相(外相、国防相兼任)
1983年1月	ファラ外相
1986年3月	ファラ外相
1989年2月	ゲーラッド首相(大喪の礼)
1990年7月	イブラヒム厚生大臣
1990年9月	ゲーレド大統領(非公式)
1990年11月	ゲーレド大統領(即位の礼)
1991年6月	ゲティ・ハル・RPB(国民進歩連合党)副総裁
1991年9月	ファラ外相
1991年10月	ジャマ・エラベ厚生大臣
1993年10月	アブドウ外相(TICAD I)
1994年3月	ワベリ教育大臣
1994年4月	アバス農業・農村開発大臣
1994年9月	ワベリ・グウェディ運輸・観光・通信大臣(ITU会議)
1995年9月	ゲーレド大統領(非公式)
1996年9月	アメッド農業水力大臣
1997年5月	シェヘム外相
1998年6月	ワイス内務・地方分権大臣
1998年8月	ゲーレド大統領(非公式)
1998年10月	ゲーレド大統領(TICAD II)
2000年2月	アブシェ国民教育大臣
2001年2月	ファラ外務・国際協力大臣
2001年12月	ファラ外務・国際協力大臣(TICAD閣僚レベル会合)
2001年12月	ユスフ首相付女性地位向上・家庭厚生・社会問題担当大臣(第2回児童の商業的搾取に反対する世界会議)
2003年3月	ビリリス農業・畜産・海洋大臣(世界水フォーラム)
2003年9月	ゲレ大統領・ファラ外務・国際協力大臣(TICAD III)
2005年7月	ミギル・スポーツ・余暇・観光大臣(愛・地球博賓客)
2006年6月	ユスフ外務・国際協力大臣(外務省賓客)

7.二国間条約・取極

1999年3月7日 青年海外協力隊派遣取極